

平成 28 年 10 月 21 日

各位

会社名 カネヨウ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 川島 正博  
(コード番号 3209 東証第二部)  
問合せ先 取締役 中村 陽介  
(TEL. 06-6243-6500)

## 事業の現状、今後の展開等について

当社株式は、平成 28 年 7 月において時価総額（月間平均時価総額及び月末時価総額）が 10 億円未満となり、株式会社東京証券取引所の上場廃止基準（上場時価総額）にかかる猶予期間に入りました。

これを受け当社は、事業の現状及び今後の展開等について、下記の通り東京証券取引所に対し、同社有価証券上場規程第 601 条第 1 項第 4 号 a 本文に定める書面を提出いたしましたので、お知らせいたします。

本書面の提出により、平成 29 年 4 月 30 日までの何れかの月において、月間平均時価総額及び月末時価総額が 10 億円以上になった場合は、上記の上場廃止基準に該当しないことになります。

株主の皆様をはじめ関係者の皆様には、大変ご心配とご迷惑をおかけしておりますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1. 事業の現状について

##### (1) 経営の基本方針

当社は、「健康と豊かさを求めて」を企業理念として、「健康・快適・環境」をテーマとした生活関連専門商社として継続的に社会に貢献する企業を目指して、事業を推進しております。

##### (2) 当社事業の現状

事業内容は以下の通りであります。

###### ① 寝装用原料事業

世界各国より高品質の原料（羽毛、羊毛、獣毛、合繊等）を調達し、主に国内のお取引先様へ提供しております。特に、羽毛原料においては、欧州の生産地農家や自治体との連携を強化し、トレーサビリティを明確にしておりますので、良質の羽毛を安心してご使用頂けます。また、大手国内繊維メーカーと取組み、消臭・抗菌・防臭効果を持つ「デオパワーダウン」を開発し、羽毛特有のニオイの発生や細菌の増殖を抑制することが出来ており、より快適にご使用頂けるダウンを提供しております。

###### ② 寝装・インテリア事業

世界各国から輸入した良質な羽毛原料を用い、国内のメーカーで丁寧に製品化しております。また、機能性素材を使ったマットレスや枕、ガーゼ等の寝具、高級シルク布団等、国内外の協力工場で安心・安全そして高品質な寝装品を作っております。

機能性枕につきましては、大手ホテルチェーンと共同開発した製品を納入しており、宿泊されたお客様より大変好評を頂いております。

インテリア事業では、洗練されたデザインと品質を追求したベルギー製カーペットをはじめ欧州各国からインテリア製品の輸入を行い、幅広いニーズに対応しております。また、国内カーペットメーカーと抗菌・抗ダニ・抗ウイルス加工カーペット・ラグの開発も日々行っております。

③ アパレル素材販売事業

地球環境と人にやさしい天然繊維（ウール・綿・麻）を用いて企画したニット生地をメインとして、化合繊等多様な原糸との複合素材も得意分野としております。特殊糸においては、紡績メーカー時代に蓄積された技術を活かして開発した、当社オリジナル糸を使用したニット生地を取り扱っております。また、当社の寝装用高品質の羽毛原料を使用したアパレル製品の提供も行っております。

(3) 業績の推移及び概況

① 業績の推移

(単位：百万円)

決算期	平成 26 年 3 月期	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期
売上高	10,886	9,568	9,604
営業利益	92	55	44
経常利益	42	11	11
当期純利益	106	41	10
純資産額	1,033	1,074	1,042
総資産額	5,602	5,073	4,981
営業活動によるキャッシュフロー	△ 640	264	533
投資活動によるキャッシュフロー	104	0	67
財務活動によるキャッシュフロー	446	△ 129	△ 276

② 業績の概況

平成 21 年 3 月期に一過性の理由から当期純損失を計上しましたが、過去 10 年間で当該期以外は全て当期純利益を計上してきております。量より質への転換を図り、強固で持続可能な収益基盤を構築してまいりましたので、今期以降も安定的に黒字を確保する見込みであります。

2. 今後の展開について

(1) 収益性の改善

- ① 売上規模を追求するのではなく、付加価値率・利益率の高い取引を追求していきます。事業の選択と集中を行い、当社の役割が小さい取引、身の丈に合わない取引、または今後の成長に繋がらない取引や商権は見直し、将来性のある、確りと利益が確保できる取引に注力していきます。
- ② 寝装用原料取引では、海外の生産者（サプライヤー）や自治体との提携を強化し、展示会や商品説明会を定期的で開催することで、差別化を推進してまいります。また、営業力強化を図り、お客様のニーズにきめ細かくお応えできる体制を構築していきます。更に、日本で洗浄し防臭・抗菌加工した機能性原料を、海外へ輸出していくことにも取り組んでまいります。

- ③ アパレル素材取引では、アパレル製品、特に婦人用アパレル製品を強化していきます。昨年より取組開始した婦人用アパレル製品は、お客様から好評を頂いており、当社原料も含めたオリジナル素材による婦人アパレル製品の販売に注力してまいります。
- ④ 今一段の経費の削減に努めてまいります。

## (2) 事業領域の拡充

### ① 寝装用原料の他分野開拓

寝装用原料用途を主体として取引を行ってまいりましたが、今後、寝装用原料以外への用途開発を推進してまいります。特に、合繊原料において、自動車向けの不織布用途や建材向けの補強材用途等、安定的な需要が見込める分野への取引拡大に注力していきます。

### ② 中国向け輸出取引

寝装・インテリア販売事業では、日本国内をターゲットエリアとして取引してまいりましたが、中国における富裕層の増加や、一人っ子政策の廃止による今後の乳幼児増加を勘案し、乳幼児向け寝具（ベビー寝具）の中国向け輸出を推進してまいります。

### ③ IOT 寝具の開発

インターネットやセンサーと枕や布団等の寝具類を組み合わせた IOT 寝具の開発に取り組んでおります。今後、需要の増加が期待される、老人ホームや介護施設向けの業務用や睡眠の質の向上に敏感な個人向けに開発を進めてまいります。

## (3) 営業体制の改編

- ① 当事業年度より、従来の営業 5 部体制を 3 部体制へと再編成することで、販売戦略の共有や深化を図り、機動性の高まる組織で、収益の拡大に取り組んでおります。
- ② また、営業組織の一部を東京へと移動させることで、実需対応の取引を中心に主要客先との連携強化を図り、企画提案型で付加価値を高め、売上総利益の向上に努めております。

## (4) 財務体質の改善及び資本政策の検討

- ① 財務体質の改善のために、保有している資産の処分を進めてまいります。
- ② 早期に累積損失を解消し、復配出来る体制を構築するため、様々な資本政策も検討してまいります。

## 3. 今後の見通し及び上場維持について

今後も厳しい経営環境が続くことが予想されますが、上記の取り組みにより、当事業年度の業績予想は売上高 9,700 百万円、営業利益 65 百万円、経常利益 20 百万円、当期純利益 15 百万円を見込んでおります。同予想は、売上、利益面とも平成 28 年 3 月期業績を上回るものですが、当社はこの業績予想より、利益計上を更に上積みすべく努力継続することで、株主をはじめとしたステークホルダーの皆さまの信頼回復と財務体質の安定化、企業価値向上を目指してまいります。

これらにより、当社株式の月間平均時価総額及び月末時価総額について、東京証券取引所の定める基準を上回ることにより、今後も上場維持出来るよう努めてまいります。

以上